

墨夷應接錄二篇

星

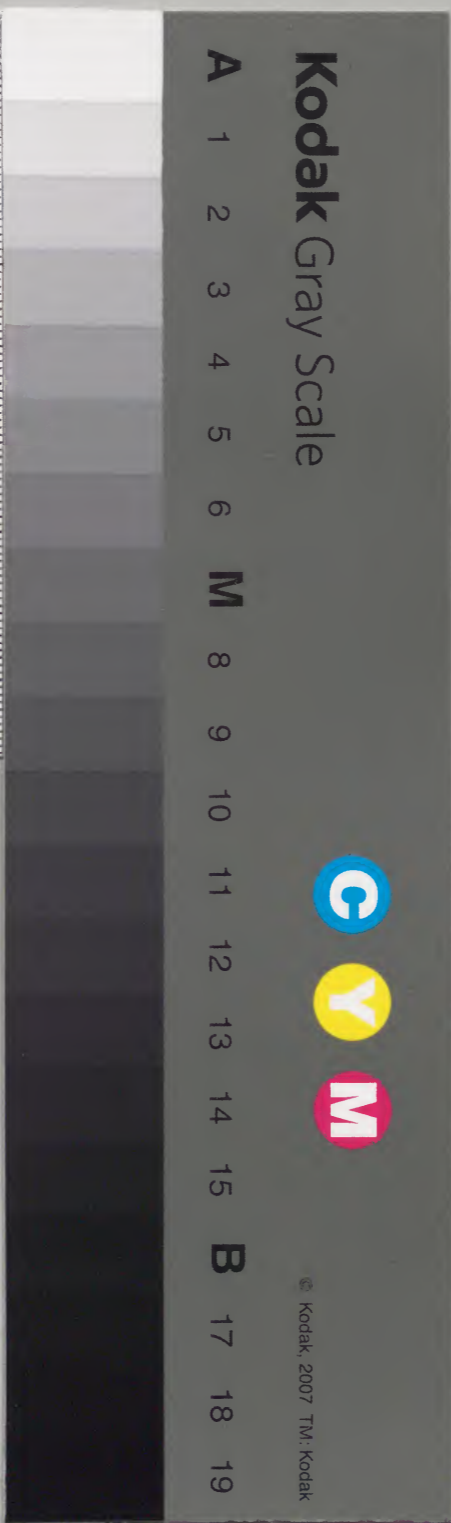
庫文閣内			
函	架	冊	號
		三	七
		三	六
		六	
		類	和書



庫文閣内			
函	架	冊	號
一		三	七
八		三	六
五		六	
一		類	和書
四			

内閣文庫	
番號	和 31736
冊數	6 (6)
函號	185 340

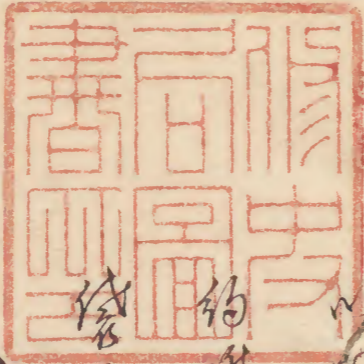
史



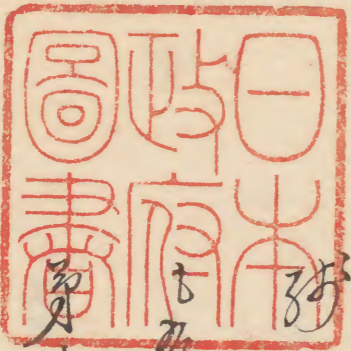
墨夷惠母經二篇

吳

五月廿五日



以同狀致破音施之亞基利如人日愈接之正條
約所錄為形習水清而身去當分以十名生去
信多色以台海成拂以月身以色道以行以取以
一食尤聖報位定其形中身之而之強自未信利如



張石廣之之既明也應接所積身而細以
古其語亦不為獨而解之身去積子以以之次
身身身身身身身身身身身身身身身身身身身身
然也身身身身身身身身身身身身身身身身身身身

亞墨利加人眾館表之相安伊等言 尚來中
少以爲言也出所之 概供其長 應接 信傳中者言

井 大學以

井 戶對言言

伊 澤原也

於 筑路河也

物 般也新也

井 内法也

招 崎 滿也

亞墨利加人眾館表之相安伊等言 尚來中
掛合之 以言也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

而後之取乃... 此天... 井... 淨... 於... 物... 竹... 松...

細川... 紙中... 而... 亦... 同... 瓶... 此... 亦... 通... 江... 河... 海...

伊澤勇作の據全權のミニストル宛の書翰
セケレタリスフアンセガシー名に依りワシントンに
於て此城を侵す節に

全許の友の

ポルトメン

秋の書状より名宛を以て

アエルセポルトメン エスクエ

子ウオルク地 ニイテットステツ

ラフエメルケ 互有利如
全取也

ペルラーブルントメールフエ

マルセールレス 諸所の名宛の
是ハ書状上包の左

陽子の
認り

右書状ハ右目録の如く互有利如形ハ長崎に
在り此の如く此の如く又エケレス船フランス船
上此の如く此の如く 互有利如の中程に
一戦争の起るに於て此の如く此の如く
此の如く此の如く 戦争の起るに於て此の如く
人才の如く此の如く 此の如く此の如く
子ノ如く

辛ノ
婦人
異人ノ語

五月十日

新筑野河書
伊澤野河書

戶田伊澤書

多心也端之
極致函知又心也成
年務心以之

宿繼以用狀得也
意也多能愈所
以因心也
山者務也
年務心

一
時心附之
中色也
按會也
經又伊澤書
年何
以極心
有之
以極心
可也
以極心
有之
以極心
有之

五月十日

戶田伊澤書

林 大學以報
伊澤野河書

以心之因以揚之其年於分 龜山由名子
石中色也

一 田中庵乃後 龜山少滴乃 時官帰浦
日教十吾之也 暇就出江戸 表以少之
以一人後是之 以地以田 在柳中 故振子
其之支也 此乃海式 及以出 修以以之

寅五月十日 辰下 九礼 一 返進之

戸田 伊豆 忠 友
松平 伊藤 忠 友

下田 忠 友
松平 伊藤 忠 友

下田 忠 友
松平 伊藤 忠 友

戸田 伊豆 忠 友
松平 伊藤 忠 友

正利加加 冬 槽 落 兄 進 之 今 後 亦 有 取 斗
力 之 協 之 日 一 名 言 及 以 掛 念 通 弟 人 共 據 爲 大 也 以
委 留 中 瑞 乃 爲 之 以 也 以 爲 戶 表 之 事 進 以 經 色 中 上

郭况 孫河 七
郭政 民 孫 步 捕
竹内 陸 太郎
松崎 滿 五 郎

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

以審繼用狀為由之旨者批急以照因以事在動勢身微
此去五月十七日蒙彼即見至尚唐改區帳而正其利如葛架
船動艘再原所吉 亦中刻尚唐入洋以 以終在
詔知 上中 色 石

一 另人埋葬之地、柳崎村玉泉寺、此處水定四月尚二月
槽層村埋葬之分因昔日改葬之役多人感伏治而亦付
押送船或艘上由年行但与力合系操就回但回心
亦人少終因付安孫內就山少人因付亦人三層亦人亦人
為意但橫濱村山出城改葬亦年以情以體山在終返

与浦崎等事... 此後

五月十五日

松崎浦

竹内清太郎

稻股武助

加茂清太郎

伊沢清太郎

井戸清太郎

林大守

戸田伊三郎
松原伊三郎

於此尚月中旬... 以上

吉乃... 此後

此指合書山以各下六札附致通卷名為細意者以函知
可りぬ

右在報可り山是也約以體の上

五月十五日

松崎清太郎

竹田清太郎

物取武敏少輔

松崎清太郎

伊澤勇飛書

井ノ口三吉

林 大學政

戸田伊三書

松平伊三書

五月十五日附者以用状致有又由多取
海内照因下海
在物致至有物如物八去月十日家能
即之至其漆
致函航以正其利如甚多船致被
再治其言午中刻
以他濟入津以一月月為函知以中城之
致函細致
函知

一 吳人埋藥之地柿崎村
出多言此函在控其
尚二月權濱村埋藥之分
同言改藥之役吳人致
函伏以月押送之船致被
下回奉約組其力合事據
因知月有人以控目月
安孫其流以吳人目月
安人三言

吳人車人參經橫濱村在城改裝之後以在斗之精也
極右往返之開智以當兩山之雲水在兩山極中極至之
以極物名在古是之修僧有之極江戶極上之極也
函知中城極是之極知在之極也之極也
在之極也之極也之極也之極也之極也
之極也之極也之極也之極也之極也
可之極也

一 函知如船之極極見是之極也之極也之極也
以極也之極也之極也之極也之極也
極之極也之極也之極也之極也之極也

五月 十日

松平伊藤書

- 林 大守正報
- 井戶對吉報
- 伊藤伊藤報
- 神尾海海報
- 物取式之補報
- 竹内清平報
- 松崎清平報

松崎清平之極極知在之極也之極也

十号官浦多式水清... 抄名... 以上

合衆國標民... 年月... 書

合衆國標民... 彼...

近年南太平洋海... 航約...

昔約... 船中の人...

以... 軍艦... 子才...

尋求... 供... 船...

其... 探... 我...

至利... 船... 具...

世... 記...

一 弘化四年相模地江澤島に亘る利加人其地より七路に
後送し之和系船子附し之海不せしむ

一 嘉永元年申年同地江澤島に亘る利加人其地より
迎船子附し之り

一 嘉永三年戌年同地江澤島に亘る利加人其地より
船子附し之り海不せしむ其の三^次次は其の十年
其年澤島に船あり且其地子残留あり其利加人
又之頃より外に其地に三^次次は船あり其地の古吏

其の計は之受ふ其の系船に於て其の知者あり
唯今其曲を海に之傳ふ此の子孫あり其地

嘉永七年五月

林 大守

井戸對馬守

澤澤 右衛門

那 筑後守

那 筑後守

竹田 清久

互有利如使長名接之上取捨極中名去付

林 大學法

井戸野言書

伊澤野郎書

神筑路向書

鴉取交の補

竹内法也書

杉崎海老書

美州市田表下互有利如能再復之
一四有るを接致
城道之公使
海島之孫
同海之極急
傳書之ルリ

山中可謂... 大小... 鳥獸... 伏... 書中...

一 大... 伏... 書中...

一 大... 伏... 書中...

一 大... 伏... 書中...

前書之孫言所引之...

一 金限目方...

...

一 向後...

...

...

...

...

...

...

古...

禮六殺誤

...

...

...

...

...

...

...

前書之稱言所引之...

一 全取目方在每...

之各各日之...

一 向後被方上...

之...

此後之...

當時之...

其...

見...

之...

古...

一 之...

吾...

南...

按...

日...

之...

出...



Faint vertical text in seal script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to decipher due to fading.

